

過去の出題傾向について確認しておこう！

九大入試研究[世界史B]

▶ 出題一覧表

2015年度より、文学部にのみ、入試科目に地理歴史が加わった。2015年度・2016年度九大本試の出題内容について、大問ごとに概観してみた。

年度	問題番号	出題内容	講評
2016	[1]	帝国主義時代のイギリスの世界経営とその拠点 (500字)	指定用語に経済(資源・市場・自由貿易・物流)と海域(南シナ海・大西洋)が多いことと、リード文にある、シンガポール・ジブラルタル・スエズ運河が持つ意味という部分を参考に、帝国主義時代のイギリスが、どのように本国と従属地域を結んだのかを論述する問題であることをつかみたい。
	[2]	カリフの役割の変遷 (40・200・150字)	論述が3題出題されたが、「シーア派の性格」・「7～13世紀のカリフ制の変遷」・「第一次世界大戦中のイギリスの矛盾外交」と、いずれも頻出テーマからの出題であった。
	[3]	世界史における異文化の接触	教科書の基本事項が理解できていれば、全問正解も狙える平易な問題であった。この大問でいかに取りこぼさないかが重要である。
2015	[1]	アメリカ合衆国地域における住民構成の変化 (600字)	指定用語に特定の人種を指す語句がないので、まずは時代ごとにアメリカに渡った人々をリストアップする作業が必要。17世紀に西欧人の入植、18世紀に黒人奴隷の移入、19世紀以降にアジア系・アイルランド・ドイツ・東欧・南欧・ユダヤ系などの移民が流入したことを、当時の背景を合わせて述べていくことになる。
	[2]	中ソの対立 (240・60字)	珍宝島(ダマンスキー島)事件に関する史料を用いた大問で、史料が分からなくても設問の問題文から、Aが中国でBがソ連であることが分かる。論述問題については問3はソ連の平和共存政策・中ソ論争・プロレタリア文化大革命について流れを追って説明することがポイント。
	[3]	権力の集中と統制の強化	古代から現代にわたる諸国家の制度を中心とした、平易な記述問題。教科書の基本事項が理解できていれば、容易に全問正解できる。

▶ 分析と対策

2016年度の問題は3問で、総字数は890字と、昨年900字とほぼ同じであった。内容としては昨年同様、奇抜な問題はなく、教科書・資料集などの知識があれば対応できるものであったといえる。

次年度も論述問題が出題されるのは確実だと思われるので、長文・短文ともに対応する必要がある。[1]の対策としては東京大学の第1問で練習するとよいだろう。本学の[1]と同様に広い地域・時代について概観させる問題であり、解答作成の際の文章構築能力の向上に役立つ。[2]の論述の対策は、50～250字程度の論述問題が出題される他の国立大学(大阪大学、東京学芸大学など)・私立大学の入試問題を解くとよいだろう。[3]の各問題は大学入試センター試験対策の学習をしていれば充分対応できる。